

栄村 総合戦略

～ え～まち、え～ひと、え～しごとのあるえ～村へ ～



平成 28 年 2 月

栄 村

目 次

はじめに	1
第1章 総合戦略策定に係る基本的な考え方	2
1. 総合戦略策定の趣旨	2
2. 総合戦略の構成	3
(1) 総合戦略の位置づけ	3
(2) 施策の基本的方向	3
3. 計画期間	4
第2章 総合戦略策定のポイント	5
1. 本村の将来像	5
2. 村民の意識調査	5
(1) 村民アンケートの概要	5
(2) 村民アンケートからみえる本村の現状と課題	6
2. 基本目標（4つの基本目標の中で特に重点的に進めるべき施策）	12
(1) 検討するべき対応策	12
(2) 目指すべき4つの基本目標	16
第3章 基本的方向と各種施策	17
<基本目標1>「やりたい仕事ができる村づくり」	17
施策(1) 農林畜産業の振興対策	17
施策(2) 商工業の振興対策	19
施策(3) 地域資源を活用した新たな雇用の創出対策	19
<基本目標2>「若衆や女衆が集まる村づくり」	20
施策(1) 移住・定住促進対策	20
施策(2) 交流人口促進対策	21
<基本目標3>「安心して出産し子育てできる村づくり」	22
施策(1) 結婚対策	22
施策(2) 出産・子育て対策	22
施策(3) 教育対策	23
<基本目標4>「いきいきと暮らせる村づくり」	24
施策(1) 保健・医療・福祉対策	24
施策(2) 生活環境対策	25
施策(3) 地域文化・集落支援対策	26
第4章 総合戦略を進める上での留意点	27
1. PDCAサイクルの確立	27
2. 官民連携や広域連携の強化	27

はじめに

現在、日本の総人口は1億2,695万8千人（総務省統計局2015年7月1日確定）で、ピーク時の2008年より112万人減少しています。国においては「まち・ひと・しごと創生法」を制定し2060年に1億人を維持するため「長期ビジョン」と2015年から5カ年の「総合戦略」を策定しました。しかし、日本の人口減少と若者の東京一極集中は、地方の過疎化と少子高齢化と相まって歯止めがかからない現状です。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、栄村の人口は、25年後の2040年には1,069人になると推計されています。人口減少という現実を受け入れざるを得ませんが、栄村総合戦略においては、出生率の段階的な上昇及び毎年10人の移住者の受入を目指し25年後の目標人口を1,400人としました。

総合戦略の策定にあたっては、産・官・学・金・労・言・その他各層からなる委員を選任し計画策定にご尽力いただきました。村民の皆さんにはアンケートも実施し、4つの基本目標を定め、栄村の未来を創生することを目標に策定しました。

栄村は、東日本大震災（平成23年3月11日発生）の翌日、震度6強のかつて経験したことのない大震災に見舞われ被害も甚大でしたが、村民の努力と国・県等のご支援で、ほぼ震災前の姿に復旧しました。271.66km²の広大な面積を有する栄村は、苗場山麓が新潟県津南町と共に日本ジオパークに認定になりました。また「日本の里100選」にも選ばれた山里があります。

春夏秋冬の悠久の自然を未来永劫守り、栄村で生まれ、育ったことにひとり一人が誇りを持つと共に、総合戦略計画を村の指針とし、明るい活気ある村づくりの実践に向けて努力したいと思います。

平成28年2月

栄村長 島田茂樹

第1章 総合戦略策定に係る基本的な考え方

1. 総合戦略策定の趣旨

近年、社会問題となっている人口減少・少子高齢化の進行に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたり、活力ある日本社会を維持していくことが課題となっています。

これに基づき、国では、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、日本の人口の現状と将来の姿が示され、今後目指すべき将来の方向を掲げています。具体的には、出生率を1.8程度まで向上させ、平成72年に1億人程度の人口を確保することを目標として掲げています。

また平成27年から5年間を計画期間とする「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、政策の基本目標として「地方における雇用創出」、「東京への人口集中の緩和」、「若年層の結婚・出産・子育ての促進」、「地域活性化」を柱に、様々な施策を決定しました。

栄村では平成22年度から31年度までを期間とする「総合振興計画」を策定し、様々な課題に取り組んできましたが、平成23年3月に発生した長野県北部地震により総合振興計画の遂行が困難になり、総合振興計画の上位計画として平成24年に計画期間を5年間とする「栄村震災復興計画」を策定しました。

栄村震災復興計画は、「震災をのりこえ、集落に子どもの元気な声が響く村を」を基本目標として、村民が安心して暮らし続けられるように、被災者の一日も早い生活再建・地域コミュニティの維持を最優先に考え、さらに集落から元気を取り戻し、活力と魅力あふれる村づくりを掲げています。

しかしながら、人口減少・少子高齢化が著しく進む栄村では、下水内郡水内村と下高井郡堺村の合併以降60年間で、当時、7,844人の人口が、平成27年10月の国勢調査では2,000人を下回り、高齢化率はおよそ50%にまで高まっている状況にあります。このままの状態であれば平成52年には人口は約1,000人にまで減少することが予想されています。

こうした事態を踏まえ、「栄村総合戦略」では、上位計画である栄村震災復興計画の方向性に合わせ、「栄村人口ビジョン」で掲げた「平成52年の目標人口1,400人」を目指すために、「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」を主軸に4つの基本目標を掲げました。基本目標ごとに具体的な施策を掲げると共に、重要業績評価指標（KPI）を示して計画期間中（平成27年度～平成31年度）の目標達成を目指します。

総合戦略策定にあたっては、村民アンケートや村内の産業界や行政、金融機関等の有識者等、多くの村民の声を拾い上げ、栄村の実態に合った施策を盛り込んでいます。栄村総合戦略を進めていく上で、村民や事業者のみなさまにご協力を頂き、人口減少・少子高齢化を解決していかなくてはなりません。栄村総合戦略の目標達成のために、村民のみなさまをはじめ、関係機関のご理解とご協力をお願いいたします。

2. 総合戦略の構成

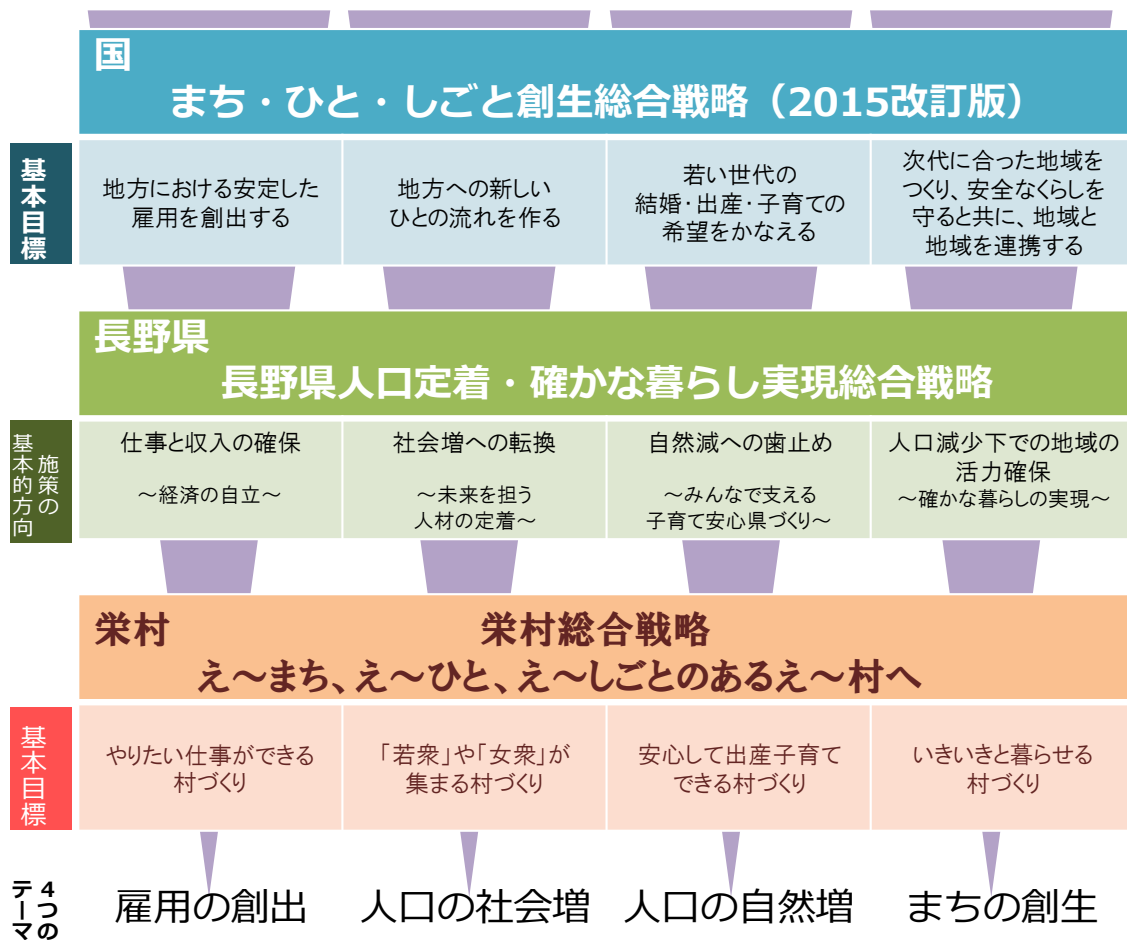
(1) 総合戦略の位置づけ

本総合戦略は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、長野県の「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」を勘案しつつ、栄村としての地方創生の基本目標を示し、それを実現するために取り組むべき施策の方向性を示すものです。

(2) 施策の方向性

国・長野県ともに「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」といったテーマを主軸に施策の方向性（基本目標や施策の基本的方向）を定めています。これらを踏まえ、本村でも以下のとおり、4つのテーマに沿って施策の方向性を定め、基本目標を設定します（図表 1）。

図表 1 総合戦略の構成

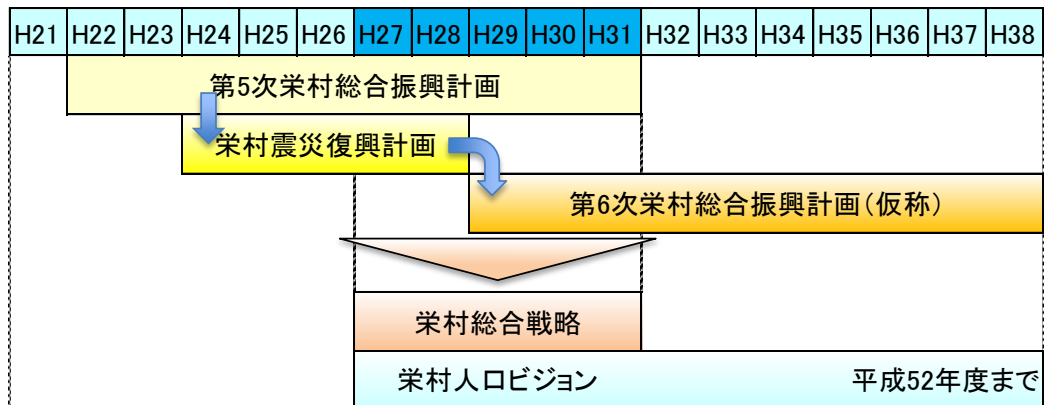


(注) 国、長野県、栄村の基本目標や施策の基本的方向をテーマごとに揃えるため、長野県は施策の基本的方向の掲載順序を入れ替えて表記している

3. 計画期間

栄村総合戦略では、人口ビジョンで掲げた目標人口（平成 52 年 1,400 人）を達成するため、平成 27 年度を初年度、平成 31 年度を目標年度とする 5 か年間を計画期間とし、基本目標や施策の方向性、具体的な施策、数値目標を設定し進めていきます（図表 2）。

図表 2 総合戦略の計画期間



第2章 総合戦略策定のポイント

1. 本村の将来像

栄村総合戦略は、本村の将来のあり方を展望しつつ、人口ビジョンで掲げた「平成52年人口1,400人」を達成するために平成27年度から31年度までの5年間の中で注力していく施策等を示す計画であります。本村の将来像については、上位計画に相当する「栄村震災復興計画」のビジョンに準ずるものとします。

本村の将来像

え～まち、え～ひと、え～しごとのあるえ～村へ

2. 村民の意識調査

(1) 村民アンケートの概要

栄村人口ビジョン及び栄村総合戦略の策定にあたっては、定住意向や人口減少問題等に関する意識などに関する村民の意向や実態等を把握するため、以下の示す2種類のアンケートを実施しました(図表3)。

「定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」は、18歳～79歳の村民590人を対象に村民の定住意向や人口減少問題に関する意識を、「若い世代への意識調査(若い世代のみなさんへのアンケート)」は、高校生世代の村民46人を対象に将来の夢や仕事、定住意向等を調査しました。

図表3 村民アンケート調査 概要

	村民の定住意向や人口減少等に対する意識調査	若い世代への意識調査(若い世代のみなさんへのアンケート)
調査期間	平成27年9月1日(火)～9月14日(月)	
調査対象	栄村に住む18歳～79歳の村民590人	高校生世代46人(アンケート調査時点で15歳～18歳の村民)
回収数(回収率)	回収318人(回収率53.9%)	回収20人(回収率43.5%)
調査内容	定住意向や人口減少問題に関する意識、行政への要望等	将来の夢や希望する仕事、定住意向等

(2) 村民アンケートからみえる本村の現状と課題

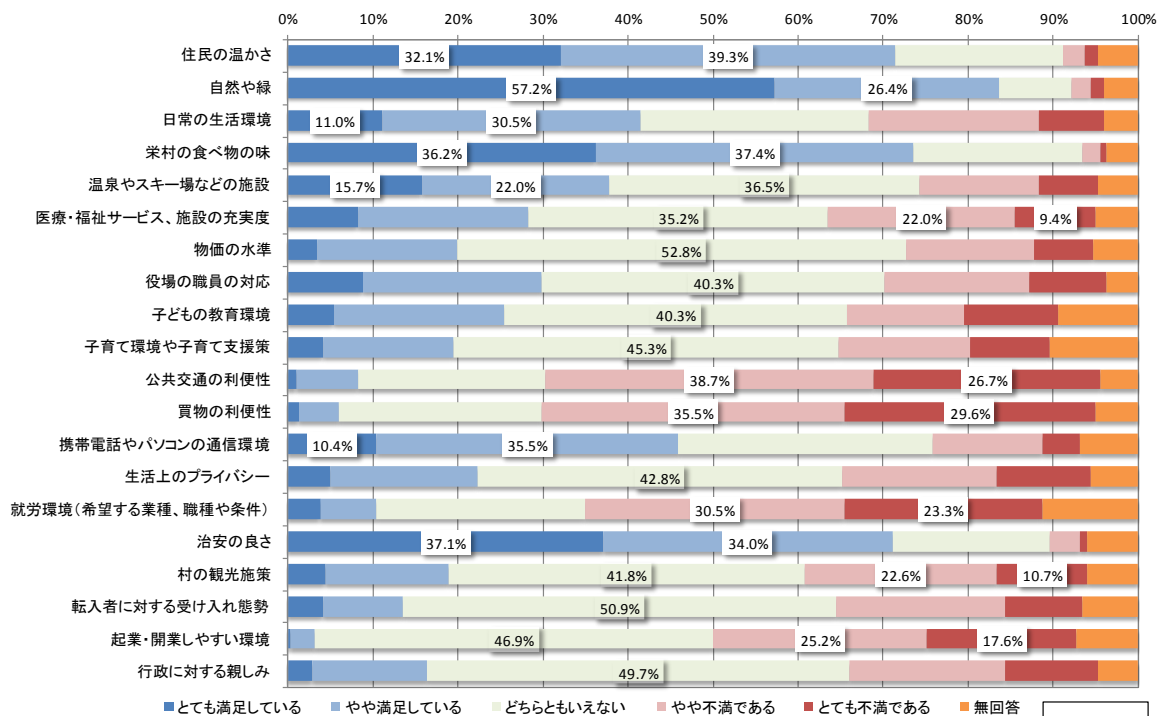
栄村人口ビジョンで掲げた「平成 52 年目標人口 1,400 人」を達成するためには、国や長野県が掲げる 4 つのテーマ「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」に関する現状や課題を村民アンケート等から抽出し、解決策をそれぞれ考えていく必要があります。テーマごとに関連性が高いと考えられるアンケート結果を以下に示し、栄村の現状と課題を整理していきます。

① 栄村に対する満足度

以下の示す図表は、栄村の各項目に対する満足度を示すもので、栄村に対して満足度（「とても満足している」、「やや満足している」の和）の高い項目は、「自然や緑」（83.6%）、「栄村の食べ物の味」（73.6%）、「住民の温かさ」（71.4%）、「治安の良さ」（71.1%）となっています（図表 4）。

しかし一方で、不満足度（「とても不満である」、「やや不満である」の和）の高い項目で目立っているのは「公共交通の利便性」（65.4%）、「買い物の利便性」（65.1%）、「就労環境」（53.8%）、「起業・開業しやすい環境」（42.8%）となっています。

図表 4 栄村に対する満足度



n=318

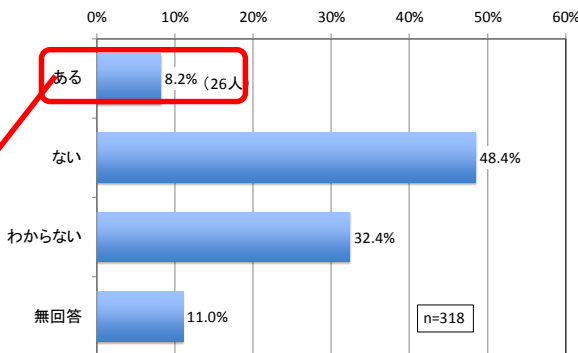
②栄村からの転出予定の有無とその理由

今後5年以内に栄村から転出する予定を聞いたところ、「ない」が最も多く48.4%、次いで「わからない」32.4%、「ある」8.2%となりました（図表5）。

さらに栄村から転出予定のある26人に対して、その理由と聞いたところ、「就職・転職」（34.6%）、「仕事上（転勤などの）」（34.6%）が最も多く、大半が仕事の関係で転出を考えていることがわかります（図表6,7）。

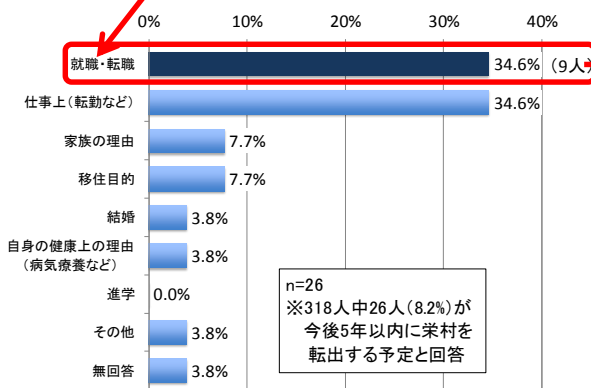
また、上記で「就職・転職」と答えた9人に対して、就職・転職を栄村以外で考える理由を聞いたところ、「村内企業には希望する業種、職種がないから」（55.6%）、「村内企業では希望する条件に合わないから」（55.6%）と半数以上が、希望する業種、職種がなく、条件も合わないと答えています。

図表5 今後5年以内に栄村から転出する予定



(資料)栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)
(注)n=回答者数

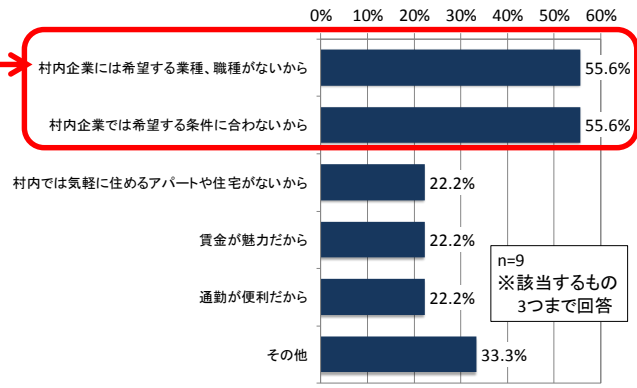
図表6 転出する主な理由



n=26
※318人中26人(8.2%)が今後5年以内に栄村を転出する予定と回答

(資料)栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)
(注)n=回答者数

図表7 栄村以外で就職・転職を考える理由



n=9
※該当するもの3つまで回答

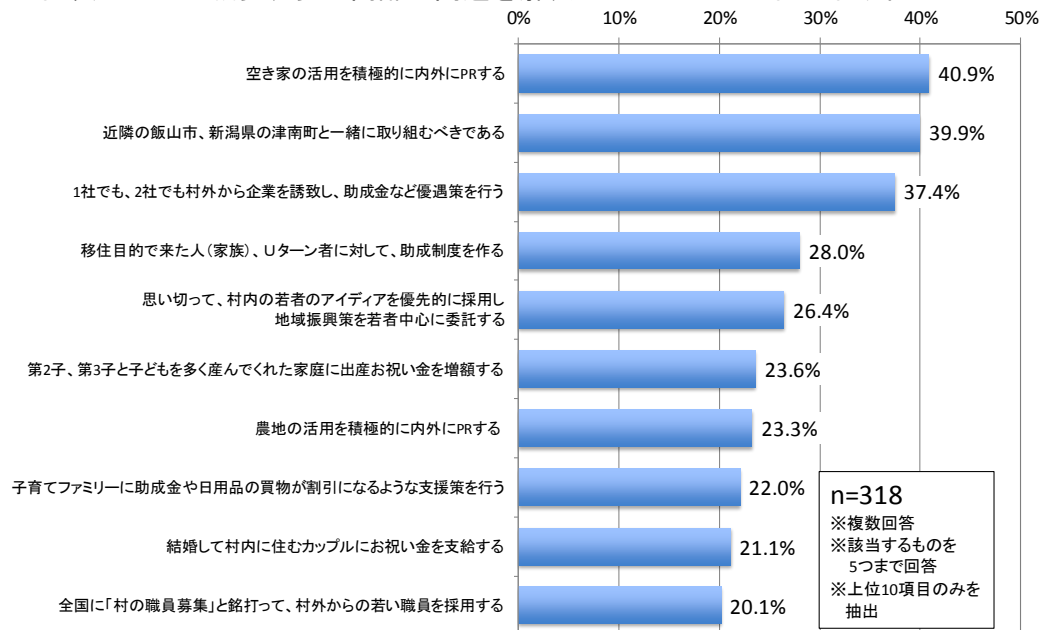
(資料)栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)
(注)n=回答者数

③人口減少、少子高齢化問題を解決していくために村が取り組むべきこと

人口減少・少子高齢化問題を解決するための解決策として、上位10項目を以下に示します(図表8)。多い順に「空き家の活用を積極的に内外にPRする」(40.9%)、「近隣の飯山市、新潟県の津南町と一緒に取り組むべきである」(39.9%)、「1社でも、2社でも村外から企業を誘致し、助成金など優遇策を行う」(37.4%)、「移住目的で来た人(家族)、Uターン者に対して、助成制度を作る」(28.0%)、「思い切って、村内の若者のアイデアを優先的に採用し地域振興策を若者中心に委託する」(26.4%)となりました。

空き家活用やUターン者への助成等、移住施策や企業誘致、若者による地域振興を希望する声が多く挙げられています。

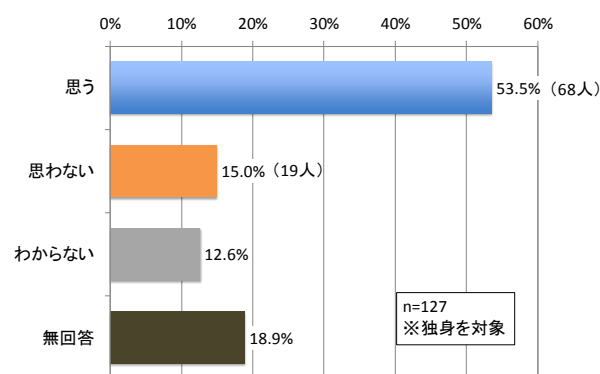
図表8 人口減少、少子高齢化問題を解決していくために村が取り組むべきこと



④結婚に関すること

独身の村民を対象に「将来結婚したいと思いますか」と聞いたところ、「思う」が53.5%と最も多く、次いで「思わない」(15.0%)、「わからない」(12.6%)となり、半数以上が結婚願望を持っていることがわかります(図表9)。

図表9 将来結婚したいと思いますか



⑤行政に充実してほしい出産、子育ての支援策

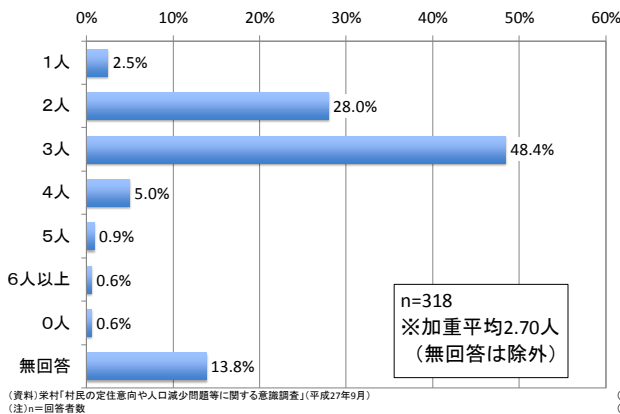
独身、既婚者問わず、「理想的な子どもの数」と「実際に産み育てられる子どもの数」を聞きました（図表 10, 11）。「理想的な子どもの数」は3人（48.4%）が最も多く、次いで2人（28.0%）、4人（5.0%）であり、加重平均すると2.70人となりました。

一方、「実際に産み育てられる子どもの数」は最も多いのが2人（40.6%）で、次に3人（30.8%）、1人（9.4%）であり、加重平均すると2.28人となりました。

「理想的な子どもの数」と「実際に産み育てられる子どもの数」の差が0.42人と乖離しており、出産、子育て支援策を展開し、この差をいかにして埋めていくかが今後の重要な課題となります。

また、「行政に充実してほしい出産、子育ての支援策」については、「正規雇用の推進など若い世代の経済的安定化」（49.7%）が最も多く、次いで「保育料や教育費、子ども医療費の減免など経済的負担の軽減」（46.2%）、「保育所や認定こども園の整備など働きながら子育てできる環境整備」（26.1%）となっています（図表 12）。上記の0.42人の差を埋めるためには、子育てしたい環境整備と共にきめ細やかな経済的支援を検討することも重要といえます。

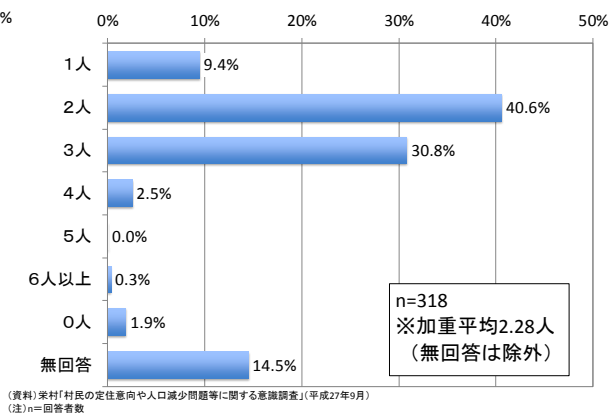
図表 10 理想的な子どもの数



(資料) 采村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)

(注)n=回答者数

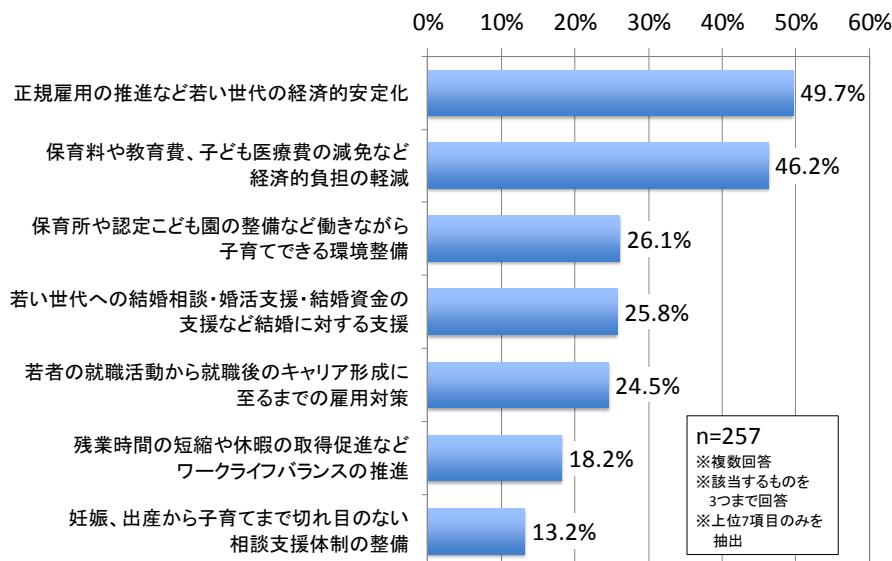
図表 11 実際に産み育てられる子どもの数



(資料) 采村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)

(注)n=回答者数

図表 12 行政に充実してほしい出産、子育ての支援策



(資料) 采村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)

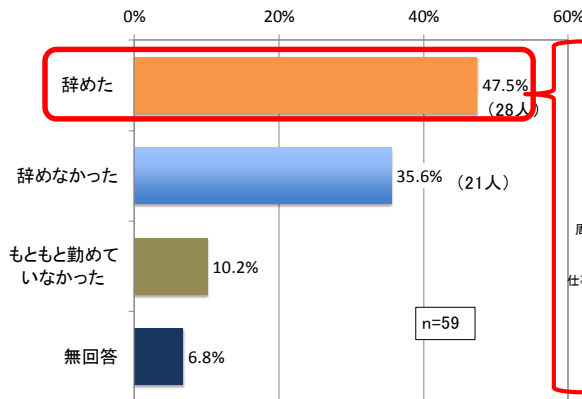
(注)n=回答者数

⑥妊娠、出産時の退職理由

現在子育て中の村民 59 人を対象に、妊娠、出産時に仕事を辞めたかどうか、聞いたところ、辞めたが 47.5%、辞めなかったが 35.6%と、約半数が妊娠や出産を機会に退職していることがわかります（図表 13）。

また、退職した理由として、「勤め先や仕事の状況から働き続けるのが難しかったため」が 60.7%と最も多く、次に「子育てや家事に時間をとりたかったため」35.7%、となりました（図表 14）。妊娠、出産を機会に、仕事を続けながら子育てをするのが難しいと考え、退職をした村民が多いのではないかと考えられます。

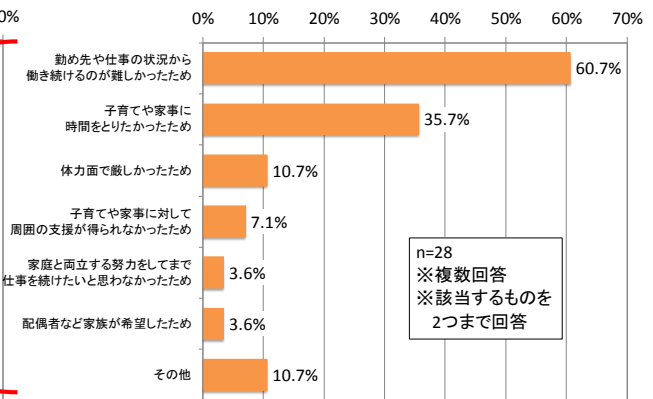
図表 13 妊娠、出産時の退職の有無



(資料) 栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)

(注) n=回答者数

図表 14 退職した理由



(資料) 栄村「村民の定住意向や人口減少問題等に関する意識調査」(平成27年9月)

(注) n=回答者数

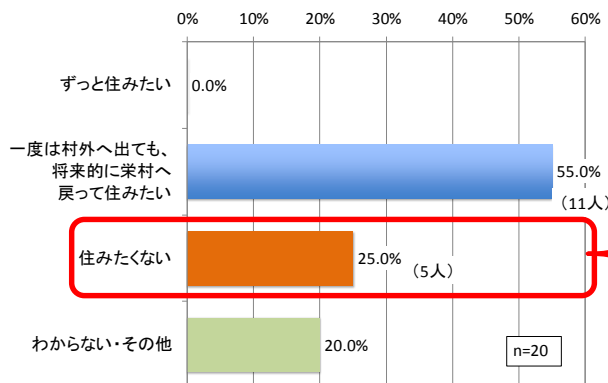
n=28
※複数回答
※該当するものを
2つまで回答

⑦若者による栄村への定住意向

高校生世代 20 人から、栄村への定住意向（将来、栄村に住みたいか）を聞いたところ、「一度は村外へ出ても、将来的に栄村へ戻って住みたい」が 55.0%、「住みたくない」が 25.0%と、半数近くが将来的に定住すると答えています（図表 15）。しかし「ずっと住みたい」が 0%であったことから、将来的に戻って来るにせよ、若者は一度、村外に出たいと考えていることがわかります。

また、栄村に定住したくないと回答した若者 5 人にその理由を聞いたところ、「買い物などが不便だから」(60%)、「働きたい会社がないから」(60%)、「通学、通勤が不便だから」(60%) と、仕事や生活基盤を理由に定住したくないと答えています（図表 16）。

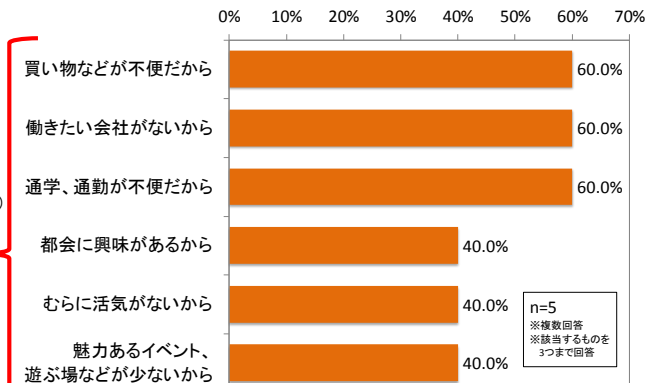
図表 15 若者による栄村への定住意向



(資料) 栄村「若い世代のみなさんへのアンケート」(平成27年9月)

(注) n=回答者数

図表 16 栄村に定住したくない理由



(資料) 栄村「若い世代のみなさんへのアンケート」(平成27年9月)

(注) n=回答者数

n=5
※複数回答
※該当するものを
3つまで回答

⑧若者が描く栄村の将来像

若者が描く「栄村の将来像」は、以下のとおりです。共通の声も多く、「自然・体験・交流・観光」、「若者による活躍」、「子どもからお年寄りまで元気で楽しい温かい村」の3グループに分類することができました（図表 17）。

「自然・体験・交流・観光」では「自然」をキーワードに、「自然がきれい」、「自然と共存できる」、「良い状態の自然が残っている」といった、自然の素晴らしさを挙げながらも、「山村留学」、「村暮らし体験交流」等、自然を活かした交流、観光の施策を提言している若者もいました。

また、「若者による活躍」は、若者が働ける場所をつくり、生き生きと活気のある村を将来像として描いていることがわかります。

最後の「子どもからお年寄りまで元気で楽しい温かい村」では、栄村の人の優しさ、温かさ、子どもからお年寄りまで元気に住める村、新しく住む人を温かく迎えてくれる村という、ハートフルな村のイメージを抱いているのではと考えられます。

その他、全体的に「にぎやかな」、「明るい」、「活気がある」、「生き生きとした」、「元気な」村といった前向きな言葉が多く見受けられており、栄村に対する思いが強いことがわかります。

図表 17 若者が描く栄村の将来像

自然・体験・交流・観光	若者による活躍	子どもからお年寄りまで元気で楽しい温かい村
<ul style="list-style-type: none"> ・自然がきれいな村！ ・自然と共存できる村 ・良い状態の自然が残っている村 ・観光地として自然が代表されて、にぎわう村 ・国内外からたくさんの人が訪れる活気ある村。「人々が行きたい！」と思うような特徴をつくる（例えば、四季を感じさせる料理とか、山村留学みたいな施設をつくるなど） ・栄村にしかないたくさんの自然や人々を活かして、首都圏に住んでいる人達の憩いの場になる村。例えば、村暮らし体験、交流、森林浴などが出来るプログラムをつくる。その際は「田舎に泊まるう」のようにホームステイスタイルにする。一宿一飯の恩義はあってもなくても良い。 ・年齢、性別関係なく、交流があり活気ある村 ・旅行者がたくさん来る村 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちが働ける所がたくさんある活気のある村 ・若い人が活動しやすい村。生き生きと生活できる村 ・少子高齢化が進んでいるので、若い人が住みやすい村づくりをして、たくさん子どもがにぎわう村にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが増え、にぎやかな村 ・子ども達の声が多く聞こえてくるような明るい村 ・子ども達が楽しく遊べる村 ・お爺さんとお婆さんの村 ・高齢化を苦しめない明るい村 ・子どもからお年寄りまで元気に楽しく住める村。 ・お年寄りの方が多し、一人暮らしの人が多し、たまに訪問したり、手助けをしたり、お年寄りの人が長生きできる村 ・栄村の良さをいかし、たくさんの人でにぎわってほしい。栄村の人は皆優しく、とても明るいので、その名の通り栄える村になってほしい。栄村の米はともおいしいので、いろんな人に味わってもらいたい。 ・村に帰ってきた若い人や、新しく住む人を温かく迎えてくれる村。昔と変わらない村 ・村民のみなさんが元気に支合っている村

（資料）栄村「若い世代のみなさんへのアンケート」（平成 27 年 9 月）

（注）複数回答している場合あり

（注）発言の趣旨を変えない範囲で、文章を修正している箇所がある

2. 基本目標（4つの基本目標の中で特に重点的に進めるべき施策）

（1）検討すべき対応策

前述では村民アンケートをもとに、栄村の現状と課題を抽出しました。栄村人口ビジョンや村民アンケート結果等を踏まえ、4つの各テーマ「雇用創出」、「人口の社会増」、「人口の自然増」、「まちの創生」にこれを整理した上で、解決策とその方向性を基本目標として掲げます。

テーマ1「雇用創出」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> 人口ビジョンやアンケートをみると、栄村の「就労環境」(53.8%)、「起業・開業しやすい環境」(42.8%)について、村民の不満足度が高くなっています。 住みたくない理由のうち、「働きたい会社がないから」の回答割合が34.0%と第3位となっています。 就職・転職を栄村以外で考える理由として「村内企業には希望する業種、職種がないから」と「村内企業では希望する条件に合わないから」が同割合(55.6%)と過半数を超えています。 人口減少、少子高齢化が止まらない要因の村民意識として「村内に働く場が限られているから」と答えた割合が83.0%と高い状況です。 人口減少問題の解決策として「1社でも、2社でも村外から企業を誘致し、助成金など優遇策を行う」(37.4%)という声がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> 基幹産業で村の資源でもある農林畜産業の振興に重点を置いて、種々の振興策を展開することにより雇用の増加を図ることや、意欲ある若者が新規就農しやすい環境を整えていきます。 栄村牛や豊かな水資源は観光資源にもなり得ますので、観光消費の拡大を図り雇用の創出へつなげるといった方向性が考えられます。 村民がメリットを受けられる優遇策を講じることによって村内消費の拡大を図り、商工業の雇用創出につなげていきます。 村の自然資源、歴史・文化を掘り起こし、関連した事業の創造や企業誘致、後継者育成について時間をかけて取り組んでいきます。



＜基本目標1＞やりたい仕事ができる村づくり

- 意欲のある新規就農者の育成、栄村の持つ地域資源を活用した事業の創造、住んでいる村民がメリットを受けられる消費喚起策などにより、各産業の振興を図ることで「やりたい仕事」が増えていく村づくりを目指します。

テーマ2「人口の社会増」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> 人口ビジョンやアンケート結果によると、村民に聞いた栄村への定住意欲度は（「将来的に戻りたい」回答割合を含む）は半数を占めますが、高校生世代では「ずっと住みたい」という声がまったくなく（回答割合がゼロ）、若い世代の定住意欲はかなり低い結果でした。 高校生世代の「住みたくない」理由の上位3つは「買物が不便」、「働きたい会社がない」、「通学・通勤が不便」（いずれも60.0%）となっています。 一方で栄村の「住民の温かさ」、「自然や緑」、「食べ物の味」、「治安の良さ」について、満足度が高く、住みたい理由にも反映されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄村の持つ豊かな自然と村民の温かさを、多様な価値観を持つ若者や女性に農村移住の魅力として提案し、移住定住の促進を図っていきます。 移住についての村民の理解を深め、お互いがスムーズに交流できるような施策やイベントの実施を支援します。 地域おこし協力隊の積極的活用により、若い世代や女性が主役となり、観光施策を推進していきます。 近隣の市町村と連携を強化することで、エリア内の周遊観光を充実させて観光客誘致を図り、交流人口の増加と将来の移住に結びつけていきます。



＜基本目標2＞「若衆」と「女衆」が集まる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> 住みやすいと思える移住施策に力を入れて社会増を図ります。事業の展開や観光施策には、若い世代や女性の新しい発想を取り入れて、地域の賑わい再生を目指すと共に「『若衆』と『女衆』が集まる」村づくりを目指します。

テーマ3 「人口の自然増」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・人口ビジョンやアンケート結果より、若い世代の中に「結婚」という意識が減ってきており（66.3%）、人口の流出と共に出会いの減少が婚姻の減少という悪循環に陥っています。 ・未婚男女の半数以上に「結婚」希望があるものの、「交際している特定の異性がいる」回答は2割にも満たず、また、「婚活をしていない」回答が75.6%に上るなど、結婚観については、ある意味、未婚男女の複雑な心境を反映した結果となっています。 ・一方、出生率については全国、県と同様に低下傾向にあります。アンケートからは理想的な子どもの数2.70人と、実際に産み育てられる子どもの数2.28人の差として考えられる理由のトップに「世帯収入など経済的事情」を挙げています。 ・日常的に子どもを見てもらえる親族や施設などがあるなど子育て環境は良好（61.0%）と言えますが、出産等を機に、勤め先や仕事の状況から働くことを断念したと回答した割合が6割を超えました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚したい」人が結婚できるように、広域連携も含めて婚活イベントを開催、あるいは開催を支援し、結婚に際しては村民全体で温かくお祝いします。 ・経済的事情により「もうひとり産む」ことを断念することがないように、子育てに必要な保育料や医療費負担等の一段の負担軽減策を講じるなど、若い世代の経済的安定化を図ることで、子育てしたい環境整備を充実させていきます。 ・未来を担う子どもたちには、栄村に誇りが持てる教育とひとり一人の良さと可能性を見出し、伸ばす教育活動を展開していきます。



＜基本目標3＞安心して出産し子育てできる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・未婚者の出会いの場を増やして結婚につなげ、子を産み育てたい環境を整備することで、「安心して出産し子育てできる」村づくりを目指します。

テーマ4 「まちの創生」

現状と課題	解決に向けた方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、「冬の生活が大変」、「買物が不便」が住みたくない理由の上位のほか、公共交通が不便、就労環境が良くないなど、村民の日常生活に係る不満が目立っています。 ・人口ビジョンによると、高校生世代が卒業後、進学及び就職で村を離れたいと意識が高いといえます。 ・若い世代の流出は地域全体の活力や集落の賑わいの低下、克雪対策や公共サービスの低下をもたらす懸念があります。 ・一方、高校生が描く栄村の将来像については、「自然と共存できる、人の優しさ、温かさを感じられる、世代を超えて元気に住める村」といった心や精神の豊かさを享受できる村という意見がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進展していく中で村民が安心して暮らせる医療体制の充実を図っていきます。 ・冬の生活への不満度を減らすために克雪対策の一層の充実を図っていきます。 ・交通や買物に係るインフラや利便性の問題は時間をかけて研究し、栄村に見合ったサービスの提供ができるよう考えていきます。 ・栄村の人々の温かさが人を呼び寄せる魅力となって、移住・定住意欲の増加に焦点を合わせると共に、村民全員が郷土を愛するといった教育を展開し、全国から注目されるようにしていきます。



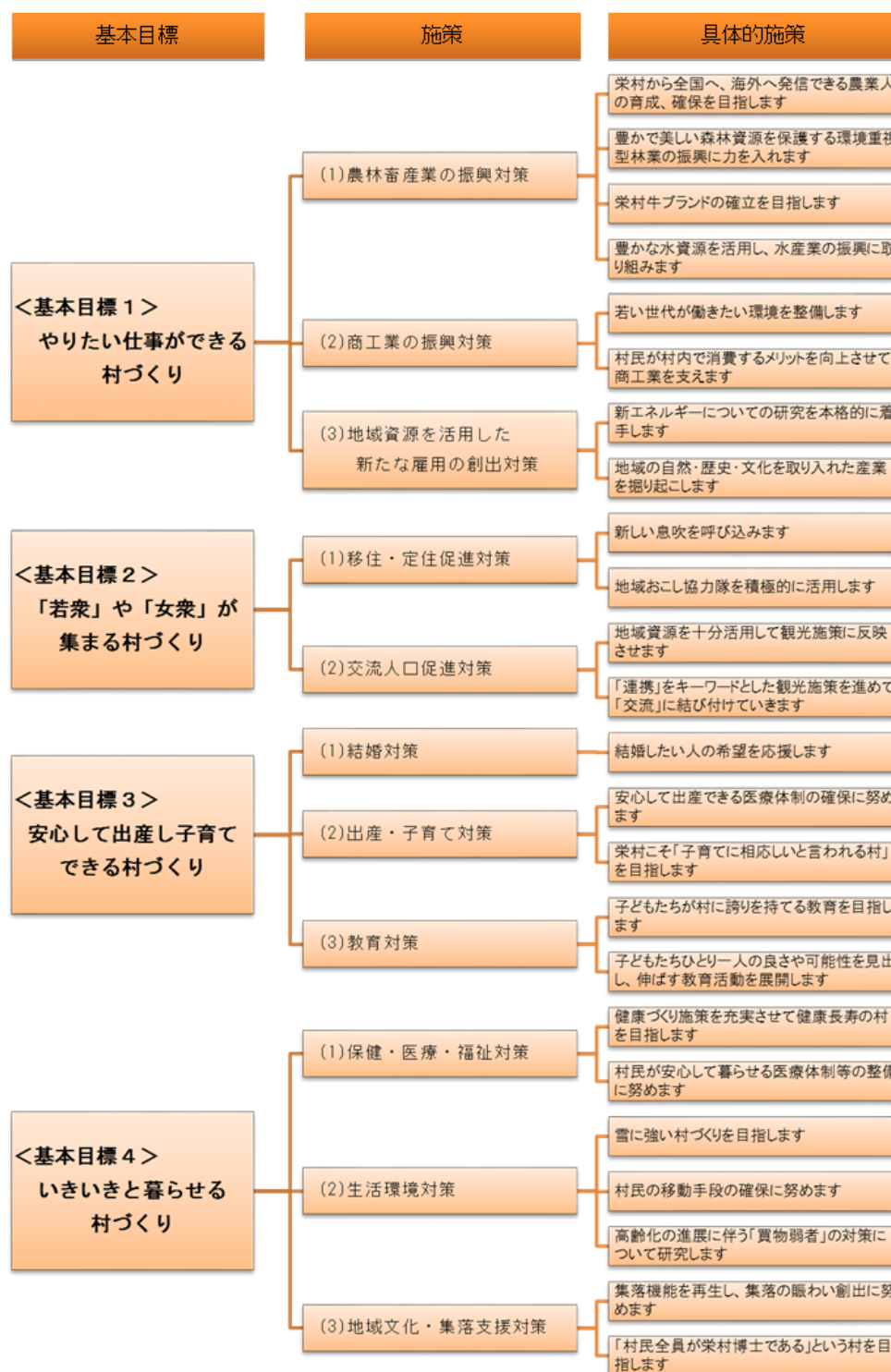
＜基本目標4＞いきいきと暮らせる村づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・村民がいつまでも健康で暮らせるように、保健・医療体制を充実させると共に、不利な自然条件やインフラの弱さを村民の温かさで克服し、「いきいきと暮らせる」村づくりを目指します。

(2) 目指すべき4つの基本目標

栄村総合戦略の体系図は以下のとおりです（図表 18）

総合戦略において重点となる4つの基本目標を達成するために、基本目標ごとに2~3の施策で構成されています。また、各施策を進める上での具体的施策として、施策ごとに1~3掲げています。栄村総合戦略の骨子となる、これら基本目標、施策、具体的施策で組み立てられた栄村総合戦略の体系図は以下のとおりです。

図表 18 栄村総合戦略 体系図



第3章 基本的方向と各種施策

基本目標1

やりたい仕事ができる村づくり

基本的方向

- ・ 基幹産業である稲作を中心とした新規就農者及び農業後継者の確保並びに育成による農業振興と、豊富な資源である森林を活用した林業振興、肉牛生産を中心とした畜産振興を図り、雇用促進と後継者育成を目指します。
- ・ 創業支援、企業誘致により就労・雇用の場の確保を図ると共に、村内商工業者による消費拡大施策、経営安定支援を行います。
- ・ 新エネルギーを活用した事業の推進及び伝統工芸技術の継承施策による起業支援により、村に新たな雇用の創出を目指します。

数値目標

	基準値 (H27)	目標値 (H31)
●創業・誘致企業件数	—	3件

施策(1) 農林畜産業の振興対策

具体的施策1		
栄村から全国へ、海外へ発信できる農業人の育成、確保を目指します		
	重要業績評価指標 (KPI)	
	基準値(H26)	目標値 (H31)
・ 新規就農者及び農業後継者の確保・育成並びに営農団体の法人化を支援します。 ・ 農業関係団体の農業生産振興対策を支援し、農業生産額の増加を目指します。 ・ 農産物加工の産業化やブランド化を図り、村内消費を拡大すると共に、多彩なチャネルで売り込む方法を農業従事者と考えていきます。	農業 担い手数 (人・農地 プラン)	5人 12人

具体的施策2 豊かで美しい森林資源を保護する環境重視型林業の振興に力を入れます			
<ul style="list-style-type: none"> ・林業団体への支援と新規林業従事者の育成に努め、林業生産額の増加を目指します。 ・後世まで引き継ぐことができる森林保護策を考えていきます。 ・栃の木を代表とする木工品及び桐下駄等木材加工品のブランド化を支援し、確かな産業への育成を目指します。 ・「雪萌山菜」のブランド化の推進と、生産・加工販売や村内消費拡大を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	林業従事者数	31 人	35 人

具体的施策3 栄村牛ブランドの確立を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・畜産経営者への支援及び畜産業従事者の育成に努めます。 ・栄村牛ブランド確立のために、村内消費の拡大や、県内外飲食店、ホテル等への売り込みを図ります。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	飼育頭数	234 頭	300 頭

具体的施策4 豊かな水資源を活用し、水産業の振興に取り組めます			
<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な雪から生み出される天然水を利用した、水産業の起業を支援し、雇用創出を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	調査研究件数	—	1 件

施策(2) 商工業の振興対策

具体的施策1 若い世代が働きたい環境を整備します			
・相談窓口を設置し、商工会・経済団体等の支援団体と協力して、若い世代が起業及び就業しやすい支援策を検討します。 ・地域の資源を活用した産業の創造・企業誘致に努め、継続的な雇用の創出を目指します。	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	累計相談件数	—	10件

具体的施策2 村民が村内で消費するメリットを向上させて商工業を支えます			
・村内で買い物するときの優遇策を充実させて、商工業の経営安定と村内での経済循環の促進に努めます。 ・観光土産品を充実させて、村外からの消費需要を拡大させます。	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	優遇策件数	—	3件

施策(3) 地域資源を活用した新たな雇用の創出対策

具体的施策1 新エネルギーについての研究に本格的に着手します			
・豊かな自然エネルギーを活用した事業の創造・企業誘致による雇用創出の可能性を探ります。	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	事業着手数	—	2事業

具体的施策2 地域の自然・歴史・文化を取り入れた産業を掘り起こします			
・村の伝統工芸の後継者育成による雇用創出と自然及び文化を活かした創業を支援し、地域振興による特色ある村づくりを目指します。	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	後継者育成対策件数	—	2件

基本目標2

「^{わけしよ}若衆」や「^{おんなしよ}女衆」が集まる村づくり

基本的方向

- ・豊かな自然と村民の温かさや地域文化等村の魅力を発信し、移住に必要な情報や環境を整備することにより、移住定住の促進を目指します。
- ・多様な価値観を持つ若者や女性を中心に「栄村ライフ」を提案し、農村移住の魅力を発信します。
- ・村民が地域資源の魅力を認識し、その資源を観光商品化する事や、栄村の魅力を多くの人に積極的に情報発信することにより交流人口の促進を目指します。また、広域観光事業の強化と姉妹都市、友好都市との交流を一層促進し、都市住民の「心のふるさと」を目指します。

数値目標

	基準値 (H27)	目標値 (H31)
● 社会動態数	△7人	10人

施策(1) 移住・定住促進対策

具体的施策1		
新しい息吹を呼び込みます		
	重要業績評価指標 (KPI)	
	基準値(H26)	目標値 (H31)
<ul style="list-style-type: none">・移住・定住を強く進めるため、専用の相談窓口を設置し、農業体験や地域行事等と一体化した体験住宅・空き家住宅の利活用に努めます。・住居・情報環境を整備すると共に、経済支援策等を積極的に講じ、近隣市町村とも連携することにより、移住・定住の促進を図ります。・村民と移住者との交流会を頻繁に開催すると共に、祭りや文化、暮らし等田舎体験の機会をつくり、村全体で温かく迎え入れます。	空き家利活用件数	1件 10件

具体的施策2 地域おこし協力隊等を積極的に活用します			
<ul style="list-style-type: none"> ・村内各集落に居住して地域おこし支援や集落活動支援を実施し、集落へ定住を促す「地域おこし協力隊」の積極的な活用を図ります。 ・任期終了後も村に定住できるための支援を行い、若い世代や女性を中心に新しい発想での事業の展開を応援します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	受入人数	3人	6人

施策(2) 交流人口促進対策

具体的施策1 地域資源を十分活用して観光施策に反映させます			
<ul style="list-style-type: none"> ・登山、雪、ジオパーク、地域の文化等、地域資源を活用した村の魅力を積極的に発信します。 ・若い世代や女性の発想や観点を積極的に取り入れ、「おもてなし」の体制を構築し、着地型観光を推進することにより、交流人口の増加を図ります。 ・地域の賑わいの創造を図るため、近隣市町村と連携し観光客の誘致を積極的に展開していきます。 	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	年間観光者数	10万人	11万人

具体的施策2 「連携」をキーワードとした観光施策を進めて、「交流」に結び付けていきます			
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の市町村とお互いの強み・弱みを補完しながら連携し、「信越自然郷」や「雪国観光圏」等広域で交通等観光施策を推進し、周遊観光や観光客誘致が図れるようにします。 ・インバウンド対策は県と、観光商品の開発は民間企業と積極的に連携し、魅力ある観光地を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	広域連携観光商品の開発	—	5件

基本目標3

安心して出産し子育てできる村づくり

基本的方向

- ・ 近隣市町村との連携によるイベント等も視野に、出会いの場の創出を目指します。
- ・ 出産、子育てに係る支援施策の充実を図り、安心して出産、子育てができる環境整備を進めると共に、出産・子育て世代の交流機会の創出を目指します。
- ・ 自然環境や地域資源を活用し、子どもたちが地域への愛着を深めるための特色ある教育環境の整備を目指します。

数値目標

	基準値 (H27)	目標値 (H31)
●自然動態数	△53人	△30人

施策(1) 結婚対策

具体的施策1			
結婚したい人の希望を応援します			
・ 結婚希望者に出会いの場を提供するため、広域連携等による結婚支援対策を推進します。 ・ 結婚に際しては、村民全体で温かくお祝いします。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	年間イベント開催数	3回	5回

施策(2) 出産・子育て対策

具体的施策1			
安心して出産できる医療体制の確保に努めます			
・ 不妊治療への対応、緊急出産への対応等について県や近隣市町村と連携して進めます。 ・ 妊娠中の不安を取り除くカウンセリング環境を整えます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	合計特殊出生率	1.44	1.60

具体的施策2			
栄村こそ「子育てに相応しいと言われる村」を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援体制の整備及び少人数ならではの手厚い保育、子育てに係る経済的支援等を検討し、子育てしたい村づくりを進めます。 ・出産並びに就学等を村民全体で温かくお祝いします。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	子育て環境満足度	61.0%	75.0%

施策(3) 教育対策

具体的施策1			
子どもたちが村に誇りを持てる教育を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然、歴史、文化、伝統行事等を活用し、村に誇りを持ち地域への愛着を深め、学力の向上につながる教育を推進します。 ・地域と連携したコミュニティスクールを開設します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	コミュニティスクール数	—	1

具体的施策2			
子どもたちひとり一人の良さや可能性を見出し、伸ばす教育活動を展開します			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育体制や環境整備を図り、基礎的学力の向上を推進すると共に、豊かな人間性を育む教育を目指します。 ・学校と家庭が連携して学習環境を整え、家庭学習を推進します。 ・少人数の特性を生かした「きめ細やかな教育」を目指します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
	基準値(H26)	目標値 (H31)	
	学習習慣形成度	48	65

基本目標4

いきいきと暮らせる村づくり

基本的方向

- ・ 村民がいつまでも健康で、いきいきと暮らせる地域をつくり、村民全員が安心して暮らせる村を目指します。
- ・ 冬の雪に負けない栄村独自の克雪対策を実施し、冬でも過ごしやすい環境づくりを目指します。また、公共交通の利用向上対策と高齢者の買い物弱者対策に取組み、高齢者でも暮らしやすい村づくりを目指します。
- ・ 人口減少により地域の活力が失われつつある状況であることから、村外の若者やボランティア等の交流を取り入れ、地域のにぎわいづくりを目指します。また、暮らしや風習、地域文化の継承を推進します。

数値目標

	基準値 (H27)	目標値 (H31)
● え一村だと思える村民の割合	53.4%	70.0%
● 栄村への定住意欲度	41.8%	60.0%

施策(1) 保健・医療・福祉対策

具体的施策1			
健康づくり施策を充実させて健康長寿の村を目指します			
・ 村民の健康づくりの推進と予防対策を重点に取組み、子どもの健康推進及び高齢者でも明るく健康で暮らせる村づくりを目指します。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	特定健診受診率	49.0%	60.0%

具体的施策2			
村民が安心して暮らせる医療体制等の整備に努めます			
・ 身近な医療環境を整えるため、村内診療所及び広域連携による医療体制の確保を図ります。 ・ 高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい生活を継続していくため、地域の包括的支援・サービス提供体制を築きます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	国民健康保険医療費	197 百万円	156 百万円

施策(2) 生活環境対策

具体的施策1 雪に強い村づくりを目指します			
・克雪対策の一層の充実を図り、降雪時期でも過ごしやすい村づくりを進めます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	克雪対策支援件数	3 件	5 件

具体的施策2 村民の移動手段の確保に努めます			
・学生や交通弱者支援のため、運行会社と連携し、路線バスやデマンドバス及びJRの利用向上対策を進めます。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	デマンドバス利用者数	7,921 人	8,200 人

具体的施策3 高齢化の進展に伴う「買物弱者」の対策に努めます			
・村内商工業者と買い物代行サービスの可能性について研究します。	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	研究実績	—	2 件

施策(3) 地域文化・集落支援対策

具体的施策1			
集落機能を再生し、集落の賑わい創出に努めます			
<ul style="list-style-type: none"> ・集落や地域団体が自主的に行う地域活性化施策等を推進し、地域のにぎわいづくりを目指します。 ・地域おこし協力隊等マンパワーの提供を支援し、コミュニティの維持・向上に取り組みます。 	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	支援施策件数	4 件	6 件

具体的施策2			
「村民全員が栄村博士である」という村を目指します			
<ul style="list-style-type: none"> ・受け継がれた暮らしや文化、風習、歴史等について継承し、郷土を愛する教育等を推進します。 	重要業績評価指標 (KPI)		
		基準値(H26)	目標値 (H31)
	講座開催数	13 回	17 回

第4章 総合戦略を進める上での留意点

1. PDCAサイクルの確立

総合戦略の進行管理においては、PDCA サイクルによる管理体制を確立し、重要業績評価指標（KPI）等をもとに施策を客観的に点検、検証を行っていきます。この過程の中で、施策の追加、見直しを行い、必要に応じて総合戦略の改定を行っていきます。

また、総合戦略の客観的な効果検証に際しては、外部有識者をはじめとする第三者機関による検証を行い、その妥当性・客観性を担保します。

<PDCA サイクルとは>

PDCA サイクル: Plan-Do-Check-Action の略称のことで、Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点を事業実施のプロセスの中に取り込むことで、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

2. 官民連携や広域連携の強化

総合戦略で掲げた各施策を効果的に進めるためには、行政のみならず、村民や事業者、各種団体との連携を強化した上で、その技術や経験を取り入れていく必要があります。各施策の進捗状況に応じて、随時プロジェクトチームを設置し、官民連携による推進体制を進めていきます。

さらに、広域的な観光振興や飯山駅を起点とした2次交通施策等においては、信越自然郷や雪国観光圏をはじめとする、近隣市町村との連携も必要であり、必要に応じて広域連携による施策を推進していきます。